

「渋沢翁語らいの日」 校長講話

R3. 11. 11

本日、11月11日は、渋沢栄一翁の命日になります。栄一翁が亡くなって何年になるか知っていますか。

そう、90年になります。

私は、NHK大河ドラマ「青天を衝け」を毎週日曜日に見えています。皆さんも、見えていますか？

日本近代経済の父と言われる栄一翁は、昨日の昼の放送でも話がありました。2024年、あと3年で新しい1万円札の顔になります。

色白で丸顔の栄一少年は、お兄さん二人が若いうちに亡くなったため、長男として育てられます。お母さんは赤城下ろし、強い風の吹く中を近所の子供らと走り回る栄一少年を追いかけて羽織を着せようとしますが、栄一少年は羽織を放り投げて、また走り出して遊んだと伝わっています。皆さんが、北風が吹く中でも走り回り、「暑い！」と言って、セーターを脱いで遊びに夢中になる姿に似ていますね。

栄一少年は、五歳の頃よりお父さんから読み書きを教わります。お父さんが言ったことを、栄一少年が真似して声に出すことから始まります。物覚えの良かった栄一少年は、意味が分からなくても声に出すことで色々なことを覚えてしまったようです。皆さんががんばっている「暗唱チャレンジ」に似ていますね。皆さんも、意味が分からなくても、論語も英語も何回も言っているうちに覚えてしまいました。

栄一翁は、七歳、ちょうど1年生のころから、十歳年上の従兄である尾高惇忠さんの塾に通いました。惇忠さんの教え方は、皆さんが今年の6月の暗唱チャレンジで「子曰く 知者は惑わず、仁者は憂えず、勇者はおそれず」と覚えた『論語』をはじめ、多くの本を読みすすめさせ、意味は後で解説するものでした。意味が分からなくても、たくさん本を読んでいたのですね。

日本で最初にノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹博士も、小さい時に『論語』を読んで鍛えられたといわれています。栄一翁のお父さんや惇忠さんの教え方と同じですね。

後に栄一翁は「今日の自分があるのは、ふるさとでの漢学のお陰である」と言っています。『論語』をたくさん勉強し、「一人の幸せのためではなく、みんなの幸せを考える」ということを行いました。「自分だけよければいいのではなく、みんながいいようにする」ことを考えていました。

皆さんは、どうですか？ 自分のことだけ考えている人はいませんか。栄一翁と同じように、みんなのことを考えて行動していきましょう。

栄一翁は、体を鍛えることでは、十一歳から剣術を習っています。剣術というのは、刀で戦うもので、剣道のもとになったものです。これを頑張ることで、力強く健康な体をつくり、粘り強さや集中力、真剣に取り組む姿勢も鍛え上げられたと考えられます。

皆さんも、学校で、友達と競い合ったり、助け合ったりして、互いに高め合い、真剣に授業を聞き、運動に励んでいます。栄一翁と同じです。これから、「栄一翁ならどうするだろう」と考えながら、学校生活を送ってみましょう。

渋沢栄一翁は、両親の深い愛情の下で育ちました。お母さんの優しさと、お父さんのまごころのある商売のやり方を身に付けた栄一翁は、いろいろと大変なことにあいながらも、自分の夢や志を大きくして進み、今日の私たちに多くのことを教えてくれています。

そして、最終的に、第一国立銀行をはじめ500もの会社に関わり、600もの社会公共事業、福祉・教育機関の支援などにも熱心に取り組みました。生活に困っている人も助けたのです。

皆さんも、家に帰ったら、今日、明日、そして、土日で、栄一翁のことについて、学校で学んだこと、考えたことを、家の人と一緒にもう一度考えて、話し合ってください。新しい発見があるかもしれません。

今日11日11日、「渋沢栄一翁語らいの日」、郷土の偉人・渋沢栄一翁の命日です。栄一翁のことを家族で話し合い、栄一翁を新たに見つめ直すよい機会にしていきましょう。

これで、「栄一翁語らいの日」の私の話を終わりにします。